

## 2023 年度夏期サウスカロライナ大学英語研修報告

正 路 真 一

### Report of the Short-term English Program at the University of South Carolina

SHOJI Shinichi

〈Abstract〉

This article reports a Mie University short-term English program at the University of South Carolina, the United States of America, in summer 2023. This was the first and the only short-term program in the United States, which was conducted by the Center for International Education and Research, Mie University. This report summarizes how we conducted the program, also showing the post-program questionnaire filled by the participating students.

キーワード：国際交流、海外研修、米国

#### 1. はじめに

本稿は、三重大学の学生を対象とした米国サウスカロライナ大学への短期英語研修の実施を報告するものである。この研修は、本来、2019 年度春期（3 月）に初めて実施される予定のものであった。当時、すべての準備を終えた 3 名の参加学生が出国を控えた前週に、コロナ禍のあおりを受け、急遽中止が決定したのであった。その後約 3 年を経て、本年度夏期に改めて実施されたのが本研修である。本稿では、本研修の実施について、そのプログラム概要、また準備段階から終了までの行程を記し、そして研修終了後の学生たちの感想を報告する。

本研修は、三重大学国際交流センターが実施する短期海外研修としては唯一米国を研修先とするものである。一般的に、日本の大学生たちの海外研修先としては英語圏の国を希望する学生が多く（池田 2011、小林 2022）、その中でも米国は人気のある留学先であることが複数の国内大学で報告されている（高橋 2018、関西大学 2020）。これに鑑みて、米国を研修先とする本研修は、多くの本学学生の期待に応えるものであると考えられ、企画、実施された。以下の報告は、本研修の実施を振り返るものであり、また今後同様の米国大学への研修を企画する教職員にとって参考となる情報を与えることを目的とする。

## 2. 研修先機関

本研修に参加した本学学生の研修先となったのは、米国サウスカロライナ大学キャンパス内に立地する付属英語学校 English Programs for Internationals (以下 EPI) である。EPI は 1979 年に創立し、全米大学集中英語講座連盟 (UCIEP; University and College English Language Programs) の一員でもある。全米大学集中英語講座連盟とは、米国において、英語教育と学生対応の質が一定以上の基準を満たす大学によってのみ構成される団体であり (UCIEP, n.d.)、これに加盟している大学では高水準の教育が提供されていると考えられる。EPI には、常時、様々な国の学生が数百名ほど在籍して英語を学んでいる。

EPI は、年度を 5 つの学期に分けるターム制を採用しており、それぞれ 8 週間に渡って授業が行われる。毎学期、学生の目的に応じて計 6 つのプログラムが実施されているが、本研修において本学学生が参加したのは、最も多くの学生が在籍する短期集中プログラム (Intensive English Program) である。このプログラムでは、毎週午前 9 時から午後 3 時まで (金曜日は午前のみ)、3 種類のクラスが開講されており、その 3 つのクラスとは Writing/Grammar、Reading/Vocabulary、Speaking/Listening である。下に毎週の時間割を掲載する。

このプログラムを受講する学生は、学期初日にレベル判定試験 (クラス分け試験) を受けるが、レベル判定試験には、Writing/Grammar のレベルを測るための作文課題、Reading/Vocabulary のレベルを測るためのコンピュータテスト、そして Speaking/Listening のレベル

Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
9:00 am	Writing / Grammar	Writing / Grammar	Writing / Grammar	Writing / Grammar	Writing / Grammar
10:20 am	BREAK	BREAK	BREAK	BREAK	BREAK
10:40 am	Reading / Vocabulary	Reading / Vocabulary	Reading / Vocabulary	Reading / Vocabulary	Reading / Vocabulary
12:00 pm	BREAK	BREAK	BREAK	BREAK	No classes, free time (lunch, community service, sports, shopping trips, etc.)
1:20 pm	Speaking / Listening	Speaking / Listening	Speaking / Listening	Speaking / Listening	
3:00 pm	BREAK	BREAK	BREAK	BREAK	

図 1 短期集中プログラムの 1 週間の時間割 (English Programs for Internationals, n.d.a)

を測るための面談形式の口頭試験がある。レベル判定試験の結果に応じて、各学生は、Writing/Grammar、Reading/Vocabulary、Speaking/Listening のそれぞれの能力が6つのレベルに分けられ、これに応じたクラスに振り分けられる。例えば Writing/Grammar はレベル4のクラスを受講、Reading/Vocabulary はレベル5のクラスを受講、Speaking/Listening はレベル3のクラスを受講するなどである。各クラスを受講する学生は10名前後で、さまざまな国から来た学生が混在しており、日本人学生の数は比較的少ないため（各クラスに2～3名）、学生どうしが英語で話さなければならない環境にある。一般的に、日本の大学の海外短期研修プログラムの中には、現地と一緒に授業を受けるクラスメートがほとんど全員日本人であるものも多いことに鑑みると、EPIの学習環境は本研修の強みであると考えられる。

### 3. 実施

#### 3.1 費用

本学国際交流センターは、研修先のサウスカロライナ大学 EPI と 2020 年に覚書を取り交わし、これによって研修に参加する本学学生の入学金が免除、また授業料が10%割引される。ただし、本研修は、短期研修としてはやや期間が長いこと（6週間）、米国学生ビザの取得が必要であること、また昨今の円安事情、航空運賃の値上がり等の事情によって、本学が実施する海外短期研修としては高額なプログラムとなった。特に、学生ビザ取得の必要性については、本学が実施する他の短期研修プログラムには見られない出費を伴う。米国では、週18時間以上クラスを受講する外国人はすべて学生ビザを取得することが義務付けられており、これに8万円程の料金がかかる（2023年6月の為替相場による）。さらに日本出国前あるいは米国到着直後の各種予防接種も義務付けられており、これには数万円程かかる。こうした高額な出費を考慮して、参加学生一人につき、三重大学国際交流センターから国際交流助成金10万5千円が支給された。

後述するが、本研修に参加した本学学生によると、授業料、生活費、航空運賃その他諸々を含めて90～100万円程かかったようである。しかし、本学国際交流センターが実施する別の研修、ニュージーランド・ワイカト大学研修の期間が3週間であり、これにかかる費用が65万円程であることに鑑みると（正路・松岡 2023）、6種間の本研修の費用が90～100万円ほどかかるのは致し方ないかもしれない。

#### 3.2 時期

本研修の実施時期に決定については、可能な限り EPI の学期のスケジュールに合わせ、また可能な限り本学の長期休暇と重なるよう試みた。その結果、本学の夏期休暇のほとん

どが EPI の第一秋学期 (2023 年度は 8 月 21 日 ~ 10 月 13 日) と合致するため (English Programs for Internationals, n.d.b)、その第一秋学期の第 1 週目から 6 週目まで (8 月 21 日 ~ 9 月 29 日) を本研修の期間と決定した。これにより、本研修に参加する本学学生は EPI の第一秋学期の最後の 2 週間 (10 月 2 日 ~ 13 日) を欠席することになるが、10 月の初めから本学の後期授業が始まるため、それまでには帰国させるべきと判断した。

### 3. 3 募集

日程を含む研修の概要が決まり、本学の全学生に研修の実施をメールで周知をしたのが 2023 年 1 月、そして 2 月 10 日にオンライン説明会を実施した。この説明会には 23 名の参加申し込みがあった。説明会では、特に高額のコストがかかることを説明し、春期休暇中に保護者等と相談するようにと伝え、3 月 24 日を参加申し込み締め切り日に設定した。その結果、2 人の学生から参加申し込みがあった。

図 1 2023 年度サウスカロライナ大学語学研修 チラシ

### 3. 4 参加学生に係る準備

#### 3. 4. 1 入学申し込み

本研修に参加する学生たちの準備として最初に行ったのは、パスポートの写し、入学願

書、そして英文残高証明書を研修先機関（EPI）へ提出することであった。まず、パスポートについては、その申請から取得まで1週間ほどかかるため、最も早く取り掛かるべき事案であった。（もちろん、既に学生がパスポートを持っていれば新たに取得する必要はない。）余談であるが、筆者が関わってきた過去の海外研修の実施において、パスポートの取得が遅れる学生が必ずおり、彼、彼女らは出国までにパスポートを持っていればよいと考えている節がある。旅行と違い、研修（留学）では、研修先機関に入学を申し込む時点でパスポートの写しを提出する必要があるため、この点は募集説明会時点で説明を徹底させる必要があった。

残高証明書については、本人名義の口座でも保護者等の名義の口座でもいいので、7000ドル以上の残高があることが表記された英文の証明書を研修先機関に提出する必要があった。一般的に、米国の大学に留学する際は、留學生活を完遂するに足りる経済力を証明することが義務付けられており、そのため留学先機関に残高証明書の提出を、またその後の学生ビザ申請の際にも在日米国領事館に提出をする必要がある。この残高証明書は、学生本人の名義の口座のものでなくとも良い。例えば保護者の名義のものでもよいが、その場合は、その名義人の署名を付した別紙様式の提出も必要となる。保護者が参加学生と離れて住んでいる場合、様式に自筆で署名してもらうために郵送等でのやり取りが必要となるが、本研修の場合、保護者が子（参加学生）名義の口座にまとめたお金を移した上で残高証明書を取得したため、別紙様式を提出する必要はなかった。

入学願書は紙媒体に名前や住所等を記入したものをメール添付で送付するのみであり、これに困難は伴わなかった。本研修の場合、これら全ての必要書類を研修先機関にメール添付で提出したのが4月12日であった。これらが受理され、研修先機関から入学許可証（I-20）がメール添付で送られてきたのがその数日後で、これをもって学生ビザ申請の準備に取り掛かった。

### 3.4.2 学生ビザの取得

米国の学生ビザは、研修開始日から起算して3カ月前から申請できる。その申請から取得までの工程としては、オンラインで申請者（学生）の個人情報を入力し、申請料金（SEVIS 料金含む）をオンラインで支払い、申請者が在日米国領事館（あるいは大使館）を実際に訪れてビザ面接を受け、その後ビザが発行されて申請者の元に郵送されるといった段階を踏む。今回本研修に参加した二人の学生は、両人とも非常にスムーズに手続きを進めることができたため、結果的に研修開始の約3カ月前に申請を済ませ、約2カ月前に学生ビザを取得することができた。

学生ビザの申請に先立ってしなければいけないことは、学生本人名義のクレジットカードの取得である。(既に学生が持っていれば新たに取得する必要はない。) 学生ビザの申請には、本人名義のクレジットカードが必ずしも必要というわけではなく、親などのクレジットカードを使って申請をすることも可能であるが、その後の授業料の支払いや現地での生活においてもクレジットカードを使う場面が多いため、本人名義のカードはほぼ必要不可欠と言ってよい。クレジットカードの取得に際してはその審査などに日数がかかるため、こちらもできるだけ早く準備すべき事案である。本研修の場合は、2月の説明会の時点で、研修に参加する可能性のある学生はできるだけ早くクレジットカードを取得するよう推奨した。

学生ビザの申請手続きについてであるが、これは非常に時間のかかるものである。申請は在日米国領事館のホームページから申請ページにアクセスし、申請者(参加学生)の個人情報を入力することから始めるのであるが、これは(よっぽどまとまった時間が取れない限り)一日で終わるものではない。A4用紙に換算して5~6ページに相当する量の情報を記入する必要がある、また学生本人の出身高校の情報や、両親の年齢や誕生日などの情報、申請者の過去の渡米歴(渡米年月日)などといった、かなり細かい情報をも記入する必要がある。そのため、出身高校の住所をオンラインで調べたり、両親の誕生日や過去の渡米日を覚えていない学生は両親に電話をしたりなどして確認しながら記入を進めなければならない。本研修の場合、筆者が4月下旬から5月下旬まで数回にわたって学生と個別に会い、一緒にコンピュータ画面を見ながら申請手続きを進めた。全ての情報を入力し終わると、次は学生が在日米国領事館を訪れてビザ面接を受ける日時を選んで面接予約をする。日本にいる米国ビザ面接希望者は多く、絶えず在日米国領事館に面接予約を入れているため、限られた面接可能日と参加学生それぞれの予定を照らし合わせながら、面接予約を入れなければならない。オンライン申請ページで全ての個人情報を入力し終えて初めて面接可能日の一覧が提示されるため、申請ページに個人情報を入力し終える以前に面接予定日を想定することはできない。ただし、民間のビザ申請代行サービス業者のホームページに、大まかな面接可能日が記載されていることもある(アメリカ学生ビザセンター n.d.)。

面接予約を済ませると同時に、学生ビザ申請料およびSEVIS料金として合計約8万円をオンライン上でクレジットカードを使用して支払う。ここで初めて本研修の参加学生の高額負担が発生し、またこれは返金不可であるので、ビザ申請の際はその記入内容に間違いがないか細心の注意を払って行う必要がある。これを終えたら、学生は面接予約日に在日米国領事館に赴き、約5分のビザ面接を受け、不備がなければその1週間後に学生ビザが郵送で送られてくる。ただし、条件によってはビザ面接に赴かなくても、郵送のみでビ

ザを取得することが可能である。本研修の場合、二人の参加学生のうち1人は郵送のみで学生ビザを取得することができた。最終的に、二人の参加学生が実際に学生ビザを取得できたのは6月初めであった。

### 3.4.3 その他の準備

学生ビザが取得できたことで研修参加が確定したとみなし、本学国際交流センターが参加学生の航空券を購入した。航空運賃が刻一刻と変化したため、安価な航空券を入手することはかなわず、一人32万円程の航空券を購入することとなった。その他、6月から7月にかけて、海外旅行傷害保険の購入、本学の海外渡航届の提出、外務省のたびレジへの登録など細々とした手続きを済ませると同時に、渡米にかかる注意点を説明するオリエンテーションを実施した。

上記と並行して、筆者らは研修先機関（EPI）に無事ビザが取得できたことを伝え、参加学生たちは授業料（大学施設利用料含む）の支払いをした。授業料の支払いは、サウスカロライナ大学のホームページ上で行うもので、ここでもクレジットカードが必要となる。ここで、各学生は約34万円を支払った。これが6月末のことであった。

授業料の支払いとともに進め、またスムーズに進まなかったのが現地宿泊施設の確保である。本研修を計画していた当初は、研修に参加する本学学生はサウスカロライナ大学寮に宿泊することを想定していたが、研修先機関であるEPIと打ち合わせをしている際に、それが難しいことが分かった。サウスカロライナ大学寮は、8月開始の秋学期と1月開始の春学期に先立って、その学期開始の半年以上前に利用者を募集するのであるが、本研修の開始時期は8月であり、サウスカロライナ大学の秋学期の開始時と重なる。秋学期にサウスカロライナ大学に入学する現地の学生は学生寮利用者募集の開始とともに一斉に利用申し込みをするため、2月～3月にはもう大学寮の空きがなくなってしまうのが常だというのである。本研修の参加申し込み締め切り日が3月24日であることを考えると、本学の学生が大学寮の利用を申し込むのは不可能であった。ただし、EPIにとってはこうした事態は慣れたものであるようで、EPIスタッフが、サウスカロライナ大学近隣にホームステイやハウスシェアが可能な場所などを探してくれた。最終的に、本学学生はサウスカロライナ大学から徒歩圏内の場所でハウスシェアをすることになり（二人の学生は別々の家）、また大学寮よりもかなり安い金額で滞在させてもらえることとなった。本学学生にとっては金銭的には幸運な結果となり、またハウスシェア先の家のオーナーも親切であったようである。ただし、筆者や本学の学生二人にとってスムーズに進まなかった点とは、宿泊先が決まったのが7月末とかなり遅い時期（渡米3週間前）であったことである。この間、

我々はずっと気を揉んでいたのが、現地の EPI スタッフ (宿泊先を探してくれたスタッフ) は 7 月初めに 2 週間のバカンス休暇を取るなど、のんびりしたものであった。筆者のこれまでの個人的な経験では、海外の人々とのやり取りではこうしたことが少なく、国民性の違い、文化の違いと諦める他はないと思われる。

### 3.5. 渡米から帰国まで

すべての準備を終え、8 月 18 日に、本学の学生二人が渡米した。渡航日は、筆者と担当職員が LINE で学生たちと連絡を取り合い、空港でのお金の両替、航空機の乗り換え、現地空港での送迎などが問題なく行えたか確認しながら、宿泊先への移動を完了した。本学の学生二人が現地で研修に参加している間も、何度か LINE で連絡を取り合い、問題がないかどうかを確認した。二人の学生は 9 月 29 日に研修を終え、翌 30 日に日本に帰国した。帰国時も、渡米時と同様、筆者と担当職員が LINE で学生たちが無事乗り換え等ができているかどうかを確認した。二人の学生のうち一人は、帰国日はかなり長時間泣き続けていたそうで、この研修が彼女にとって楽しい経験であったことがうかがえる。

## 4. 参加学生たちの報告

本章では、学生たちが帰国後に提出した報告書の内容を基に、研修の様子を述べる。報告書は、主に以下の①～⑤の項目について、自由記述形式で回答してもらった。

- ①留学前の準備について (応募動機、申込手続き、語学対策など)
- ②研修内容や大学 (授業内容、形態、学生どうしの交流、アクティビティ等)
- ③生活 (住環境、食生活や健康管理、持参して良かったもの、危機管理、研修費用)
  - a. 宿泊施設について
  - b. 食事、健康管理
  - c. 持参して良かったもの
  - d. 危機管理 (危険な目に遭わないために気をつけていたこと、危険を感じたことなど)
  - e. 研修費用 (おおよその金額) および金銭管理について
- ④思い出になったエピソード
- ⑤次回の参加者へ向けてのメッセージ

### 4.1 項目①留学前の準備について (応募動機、申込手続き、語学対策など)

本学の学生二人が本研修に参加した動機は、英会話能力の向上、または海外への興味と



いうことであった。申込手続きについては前章に詳しく述べたので割愛するが、研修参加前の事前対策としては、TOEIC の教材を使った勉強、または Netflix や YouTube で英語の動画を字幕付きで見るなどしていたということであった。二人とも今回が初めての海外英語研修への参加であったが、二人の TOEIC のスコアが、それぞれ大学入学直後に 598 点、大学 3 年夏に 865 点であったことから、もともと英語学習に励んでいた学生たちであったと推察される。

#### 4.2 項目②研修内容や大学（授業内容、形態、学生どうしの交流、アクティビティ等）

研修内容（現地での授業）については、まず 1 時限目の Writing/Grammar のクラスでは、教科書の問題を解き、また各自作文を書いた上でクラスメートとペアになってお互いの間違いを指摘し合うといったものであった。2 時限目の Reading/Vocabulary のクラスでは、速読を行ったり、単語の成り立ちについて学んだり、単語の形態変化（名詞が動詞になるとどのように変わるかなど）について学んだりといった内容であった。3 時限目の Speaking/Listening のクラスにおいては、音楽や TOEFL の教材などを活用したリスニングの練習、発音の練習などであった。概ね、どのクラスも学生どうしのペアワークやグループワークが多かったようで、特に Speaking/Listening のクラスはその傾向が強く、教室の外に出てネイティブスピーカーに質問するという活動もあったそうである。

授業外の活動としては、8 月はパーティが多く、無料で食事がもらえる機会が多くあったとのことである。9 月以降は、毎週水曜日にボランティアの現地学生と話す時間が設けられていた他、EPI 主催でリング狩りに行く機会もあったとのこと。また、EPI 主催の活動でなくとも、様々な国の友人と買い物に行ったり、食事に出かけたり、近隣のビーチに遊びに行ったりなどしたそうである。

#### 4.3 項目③生活（住環境、食生活や健康管理、持参して良かったもの、危機管理、研修費用）

##### 4.3.1 「a. 宿泊施設」および「b. 食事」

住環境、食生活については、両学生とも概ね満足であったようである。ハウスシェアという形で、二人が別々に、自分以外にはオーナーの女性が一人居住する家に滞在したが、シャワー、洗濯、料理を自由に行えたそうである。一人の学生のオーナーは毎週ベッドシーツを洗濯してくれ、またもう一人の学生のオーナーはスーパーマーケットに買い物に連れて行ってくれたり、料理をふるまってくれたりしたそうである。

#### 4.3.2 「c. 持参して良かったもの」

日本から持参して行って良かったものとして二人の学生が共通して答えたのが、上着である。本研修が行われた時期は夏であり、またサウスカロライナ州は三重県と同じく湿度も気温も高いという気候であるが、米国大学の校舎内は強い冷房がかかっており、真夏でも校舎内はかなり冷える。このため、授業中等は上着が必須である。この点については、筆者は米国大学に所属した経験があるので知っていたはずなのだが、このことを忘れており、学生たちにアドバイスしていなかった。今後に向けての反省点である。その他、室内用スリッパを持って行った方がいいこと、サウスカロライナ大学のジムを無料で使えるので運動着を持って行った方がいいこと、お土産として日本のお菓子を持っていくと喜ばれることなどが学生から挙げられた。

#### 4.3.3 「d. 危機管理」

危機管理に関連して、本学の学生二人が滞在した家はサウスカロライナ大学から徒歩 20 分程度の場所にあり、通学途中にはバーやパブなどが集まっているエリアがある。その一帯は治安が良くないという評判であることから、暗くなってからは出歩かないよう渡航前に忠告していた。学生たちはその忠告を守っていたようで、暗くなってから帰宅する場合はハウスシェアのオーナーに車で迎えに来てもらう、あるいは友人の家に泊めてもらうなどしていたということであった。ただ、日中の明るい時間に、一人の学生はやや危険な体験をしたそうである。昼間に一人で歩いている時に、車に乗っている現地人から声を掛けられ、お金を払うから一緒にビデオに出てほしいなどと言われたそうである。一度断っても、その車がぐるっと回って来てもう一度声をかけられたそうである。再度断って事なきを得たが、非常に恐ろしいことである。昼間でも一人歩きをしないよう忠告するべきであったかとも思うが、そこまで行動を制限すると学生の自立した行動意欲を阻害するかもしれないため、検討の必要がある。

#### 4.3.4 「e. 研修費用」

研修費用についてであるが、本研修でかかった主な費用は、航空運賃が 328,860 円、学生ビザ取得に係る料金が 510 米ドル (約 8 万円)、授業料 (大学施設利用料含む) が 2300 米ドル (約 34 万円)、滞在費 (家賃) が 1000 米ドル (約 14.5 万円) であり、これらの合計が約 89 万円であった。それ以外に、日本出国前に加入した海外旅行傷害保険、現地で加入した保険、教科書代、食費、交遊費などが必要であったが、学生たちが報告した出費の総計は、一人が 92 万円程度、もう一人が 96 万円程度ということであった。(実際には

各学生に 10 万 5 千円の助成金が支給されたので、各学生が負担したのはそれぞれ 82 万円程度、86 万円程度という計算になる。) 現地の物価を考えると、この学生たちの報告額は低すぎると思われるので、彼女らの報告には、研修開始前に発生した学生ビザに係る費用や海外旅行傷害保険料などが計上されていないかもしれない。しかしそうだとした場合、米国での物価高が進んでいる中、これらの出費額は、筆者が想定していたよりもかなり低いものであった。二人とも相当節約して生活していたのかもしれない。実際に一人の学生は、「(現地の) 物価が高すぎて、最初の方はできるだけ節約しようとしていました」と報告している。

#### 4. 4 項目④思い出になったエピソード

学生たちの思い出としては、リンゴ狩りとアップルパイ作り、EPI 主催のパーティ、友



図 2 アップルパイ作り



図 3、4 近隣都市 (チャールストン) への小旅行



図 5 パーティ



図 6 現地の友人との交流

人と一緒に行った近隣都市への小旅行などが挙げられた。また、普段の生活で他国の友人と食事をしたり、たくさん話せたりしたことが楽しかったという意見も挙げられた。普段の授業でも、グループワーク等でクラスメートとたくさん話せたのも良かったということであった。下に、学生たちから提供された写真を載せる。

#### 4.5 項目⑤次回の参加者へ向けてのメッセージ

この節では、実際に参加学生たちが書いたメッセージをそのまま記す。

「現地の方は本当に暖かくて素敵なお方ばかりで、自分たちの英語も一生懸命理解しようとしてくれます。一生心に残る経験となるのでぜひ経験してほしいです。」

「悔いの残らないようにしてください！お金を気にしすぎず楽しんでください。COCOBOWLS という店がすごくおすすめです。行ってみてください。あとメキシカン料理の店にあるケサディーアというものがとてもおいしかったです。」

帰国後に学生が LINE で話してくれたところによると、「(帰国時は) 別れが寂しすぎて戻りたくなかったです。」「ほんとに楽しすぎました。一生モンです。」「(帰国後) 涙は乾きましたが、心の半分がなくなっただけくらい穴が空いています。」などということであった(原文ママ)。これらの証言からは、今回の研修が非常に楽しい経験であったと思われる。ただし、英語の向上について尋ねると、どこまで向上したか定かではないと両方の学生が回答した。本研修は語学研修であるので、英語能力の変化を確認するための施策が必要かもしれないということが、今後検討されるべきであるかもしれない。短期研修であるので、飛躍的に語学力が向上するということは考えにくいですが、それでも、現地で新たに学んだ英語での表現、日常の挨拶などを報告してもらおうというのも一案である。

#### 5. 結語

本稿は、本学国際交流センターが主催した 2023 年度夏期米国サウスカロライナ大学語学研修を報告したものである。第 1 章に述べた通り、日本の大学生に人気の米国を研修先としたものであったが、本研修に参加した学生は 2 名のみと少数であった。その理由として考えられるのは、サウスカロライナ大学を研修先機関として実施される短期研修としては今回が初回であったので過去の参加学生の話などを聞く機会がなく、そのため多くの学生たちが二の足を踏んだという可能性がある。しかし、より大きな理由として考えられる

のは、本学が実施する他の海外短期研修に比べ、本研修の費用が高かったことが考えられる。前述の通り、今回本研修に参加した学生の出費は 90 ～ 100 万円程度であり、これを負担できる学生（またはその保護者）は多くないと思われる。さらに学生ビザ取得手続きなどにかかる時間的負担も大きく、学生と担当教職員の負担とその対費用効果を考えると、本研修を今後も実施するべきか否かについては検討を要する。しかし、本学国際交流センターが実施する短期研修としては唯一米国を研修先とするものであることを考え併せると、実施を止めることに関しては慎重を期する必要があると思われる。また今後の円ドル為替相場の変動によっても学生の出費が大きく変わるため、こうした動向も注意を払い続ける必要があると考えられる。こうした事情を含め、本稿に報告した情報が、今後企画される米国研修プログラムの参考となれば幸いである。

## 謝 辞

2023 年度夏期サウスカロライナ大学研修の実施にあたって、多くの質問に対応していただいた EPI 校長のマーク、職員のクリス、リリアン、また滞在場所を手配し空港への送迎も引き受けてくれたジュリア、その他すべての関係者の方々に、心より感謝申し上げます。

## 参考文献

アメリカ学生ビザセンター (n.d.) 「面接予約について」

<https://www.e-usvc.com/index.php?%E2%96%A0%E9%9D%A2%E6%8E%A5%E4%BA%88%E7%B4%84%E7%94%BB%E9%9D%A2%E3%82%92%E7%A2%BA%E8%AA%8D%E3%81%99%E3%82%8B%E2%96%A0>

池田庸子 (2011) 「海外留学の意義とメリットを考える：海外留学によって何が得られるか」『ウェーブマガジン「国際交流」2011 年 7 月号』4, 1-10.

関西大学 (2020) 「留学人気国ランキング」<https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/globalnavi/destination/>

小林葉子 (2022) 「日本人英語学習者による欧米とアセアン（準）英語圏への留学順序と目的」『岩手大学人文社会学部紀要』110, 33-45.

正路真一・松岡知津子 (2023) 「2022 年度夏期ワイカト大学英語研修報告」『三重大学国際交流センター紀要』18, 101-112.

高橋美能 (2018) 「日本人学生の海外留学を促進する方策：東北大学の留学相談者と留学未経験者を対象とする調査結果を基に」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』4, 373-381.

English Programs for Internationals, University of South Carolina. (n.d.a). Intensive English, *EPI homepage*. [https://sc.edu/about/offices\\_and\\_divisions/english\\_programs\\_for\\_internationals/academic\\_programs/intensive\\_english/index.php](https://sc.edu/about/offices_and_divisions/english_programs_for_internationals/academic_programs/intensive_english/index.php)

English Programs for Intern ationals, University of South Carolina. (n.d.b). Future Students, *EPI homepage*. [https://sc.edu/about/offic es\\_and\\_divisions/english\\_programs\\_for\\_interna tionals/student\\_in formation/future\\_students/index.php](https://sc.edu/about/offic es_and_divisions/english_programs_for_interna tionals/student_in formation/future_students/index.php)

University and College English Langu age Programs. (n.d.). Our Promise, *UCIEP homepage*. <https://www.uciep.org/about.php>